



西村証券

チーフストラテジスト  
門司総一郎の

# ウィークリーレポート

2021年  
5月14日  
発行

第88回

「インフレと株式市場」

## ～インフレヘッジとしての株式投資～

### 初めに

株式市場でインフレが悪材料視されることは長らくありませんでした。むしろここ10年は「デフレだからダメなんだ」という声の方が主流だったと思います。しかし最近の株式市場では、にわかにインフレを懸念する声が高まっています。今回はインフレと株式市場の関係について考えます。

### なぜ今、インフレ？

最近ではデフレを懸念する声が大半で、特に若い人の間では、インフレと言われても、ピンとこない方が多いと思いますが、それがなぜ今、インフレなのでしょう。まずはこの点について考えます。

### 米インフレ率の上昇

インフレ率が高まっているのは事実です。米国の代表的なインフレの指標、消費者物価指数は4月の総合指数が前年同月比で4.2%上昇。インフレ圧力が高まっていることを示し、ロイターによれば、12年ぶりの高さとのことです。

### インフレ率上昇の背景

このインフレ率上昇の背景としては様々な要因が挙げられます。思いつくままに挙げてみますが、最も大きな要因としては、新型コロナにより大きく落ち込んだ米経済が、バイデン大統領の大型経済対策によって逆に急回復したことが挙げられます。また米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和についても、過剰だったということになるのかもしれませんが。

### インフレは株式市場に

インフレは株式市場にマイナスか？ここ数日の日米株式の動揺を前提に話を進めるとインフレが株式市場にとっての大きな悪材料のように感じられる方がいらっしゃるかもしれませんが、そうではありません。悪材料になるときもあれば、好材料になるときもあります。例えば、ここ数日の日米株式の下落です。

### 今回の株安の理由は割高なバリュエーションの修正

今回の日米株式の下落の理由は割高なバリュエーションの修正です。インフレになれば、金利が上がり、金利が上がればPERなどバリュエーションが低下、最後は株価が下落します。これが今回の株安の仕組みであり、成長株の下落が大きくなった理由でもあります。

### 日本株は売られ過ぎ

最後に、日本株についてコメントしておきます。先程、今回の株安はバリュエーション調整と述べましたが、それを聞いて「それなら何故」大して割高でもない日本株も売られたのか？と思う方がいらっしゃるかもしれません。ごもっともなご指摘です。だから自分は思うのです。日本株は売られ過ぎと。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.  
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)  
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号  
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業  
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。